

第 59 回 熊本県訪問看護ステーション連絡協議会 管理者会  
<代表者会議(WEB 会議)>

日時；令和 2 年 8 月 8 日(土)10 時～12 時

場所/参加者；熊本県医師会館 4 階ミーディング室

～木村、森安、木下、山本(宇城上益城ブロック)、遠藤

現地から WEB(ブロック代表)～山下、河添、荒牧、待鳥、中島、山本、森口、織田、濱崎  
役職、ブロック名や施設名は別紙参照

(議事内容)

**1、令和 2 年 7 月豪雨災害報告** (木村代表とブロック代表との WEB 対応)

全国各地から沢山の支援物資等が届いた。(災害支援一覧別紙参照)

また、別途に支援金も振り込まれている。

人吉・球磨、芦北地域の被害情報を災害委員の方々から報告を受け、熊本市の連絡協議会役員等が、これまで 5 回に分け不足している物品を被災ブロックに届けた。交通事情もあり直接現地には伺わず、高速 IC 近くで支援物資の引き渡しを行った。受け取った支援物資を被災された近隣の地域でシェアして頂いた。今後 2 回目の被災報告を受け、訪問看護事業が円滑に行えるように、ピンポイントで支援物資(血圧計やパルス衛生物品等)を届けていきたい。まだ頂いた支援物資の残りがあるので、不足している地域に今後届ける予定。

【人吉・球磨、芦北ブロック】→ 一部床上浸水の事業所もあり、訪問車や通信機器等が被災した。パソコン等通信機器が被害に遭った事業所は危機を復旧させた後、レセプト作業を行った事業所もあった。現在はクラウド型のパソコンを使用している事業所もあり、レセプト等問題なく対応できた事業所もあった。今後災害に向けてクラウド型のデータ保存にシフトしていかなければいけないのではないかと。被災された地域は罹災証明書の発行後のレセプト対応に、時間を要するかもしれない。

熊本地震後、災害委員会が発足され、県の各ブロック間の連携も取れていた。それにより今回いち早く地域の被災状況も把握でき、支援を進めることができた。今後もどこで災害が起こるかわからないので、連携を深めていきたい。しかし今回 SOS の情報発信用紙の活用が十分できていなかった。内容が地震に関連して作成していたので、今回の水害には適応していなかった部分もあった。人吉・球磨、芦北ブロックの方々から意見を頂き再度見直しを行いたい。

**2、熊本県訪問看護サポート強化事業研修委員会報告** (森安氏より)

6/12 に開催された委員会内容又委員名は別紙参照

今後、県下全訪問看護ステーションに実態調査を 9 月以降実施する予定です。

訪問看護の質を上げ、県民の皆様に訪問看護の良さを伝え、地域で安心して暮らせるように連絡協議会で訪問看護ステーションを支えていきたい。

木村代表より→今回 WEB 会議が各方面の方々から協力を頂き開催できた。また、災害委員会や教育広報委員会活動も WEB で開催を検討する。更に今後多くの会員の方々とも WEB 会議や研修会を行っていきたい。

サポートセンター木下氏より→例年開催されていた情報交換会は、今年度新型コロナウイルス感染拡大のため、多数の管理者の参加が困難であり又行政からの参加も難しい。情報交換会の開催については今後の新型コロナウイルス感染の状況をみて判断する。開催する際は、看護協会の研修センター等広い会場を利用し開催する。

### 3、COVID-19 対策 備え! (木村代表とブロック代表との WEB 対応)

熊本県は新型コロナウイルス感染拡大レベル 4 となり、感染者が増加している。

スタッフに感染者が出て事業所がいつ閉鎖になるかわからない状況。

<各ブロック代表からの意見>

- ▶熊本市代表・人工呼吸器装着車や訪問回数が多い利用者には、複数の事業所で関わるようにしている。
  - ・利用者毎の安心カードを作成している。
  - ・利用者の方々にセルフケアが確立できるようにしている。
  - ・試験的にステーションの職員と利用者も 2 チームに分けて訪問している。但し、緊急時の対応に課題がある。
- ▶有明代表・地域で感染のクラスターが発生しており、タブレットで情報交換している。
  - ・濃厚接触者がいる事業所は 2 週間休止となっており、在宅の事業所は神経をとがらせている。
- ▶宇城代表・感染は拡大しておらず、訪問はできている。
- ▶八代代表・感染は少しずつ出始めている。ペアステーションを利用したいが、精神科訪問看護が多いのでスタッフの変更が難しい。
- ▶人吉・球磨代表・がんの終末期や難病などは 1 事業所に関わっている。ライン等を使いお互い相談を行い助け合っている。
- ▶阿蘇・菊池代表・管理者会を WEB で行ったが、参加者が少なかった。
- ▶天草代表・ペアステーションを組んでも距離があり、ペアステーションに依頼が難しい。事業所のスタッフ間が密にならないようにしている。

<対策、考え方の基本として>

- ①スタッフを守る。→吸引時には、ゴーグル・フェースシールドを装着する。  
利用者にもマスク装着を促す。マスクができない利用者に訪問時はフェースシールドをする。
- ②複数の事業所で関わる場合は、安心カードやケア手順を作っておく。
- ③感染が起きてからでは遅いので、感染ありき！でケアを行う。利用者に遠慮してはいけない。

<その他の情報>

・新型コロナウイルス感染者や濃厚接触者に訪問が必要な時は、事業所に防護服一式を送ってくれる支援がある。(日看協、訪問看護財団、事業協会の3団体)

申請書などはインターネットでダウンロードできる。

申請条件としてアンケートへの回答が必要である。

報告者；熊本県看護協会訪問看護ステーションくまもと 遠藤